

第79回日本輸血・細胞治療学会 東海支部例会

プログラム・抄録集

日 時	2022年11月12日（土）12:00～
開催形式	Web開催
例会長	近藤 勝（岡崎市民病院）

第79回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会プログラム
2022年11月12日(土)(Web開催)

10:20～11:00 【理事会】

11:10～11:50 【評議員会】

12:00～12:45 【共催セミナー】

共催：帝人ヘルスケア株式会社

座長：高見 昭良 先生（愛知医科大学）

演者：池亀 和博 先生（兵庫医科大学病院）

「HLA不適合移植の展望と野望

－免疫グロブリン製剤の香りを添えて－

13:00～13:10 【総会】

13:10～13:15 【開会挨拶】

例会長 近藤 勝（岡崎市民病院）

13:15～14:45 【シンポジウム】

テーマ 「安全で円滑に輸血医療を進めるための教育」

座長 三浦 康生 先生（藤田医科大学病院）

(1) 飛田 規 先生（磐田市立総合病院）

「安全で円滑に輸血医療を進めるための教育～認定医の立場より」

(2) 野口 和希子 先生（岡崎市民病院）

「安全で円滑に輸血医療を進めるための教育～認定輸血検査技師の立場より」

(3) 杉浦 利美 先生（安城更生病院）

「安全で円滑に輸血医療を進めるための教育～学会認定・臨床輸血看護師の立場より」

14:45～15:00 【休憩】

15:00～16:00 【特別講演】

座長 近藤 勝 先生（岡崎市民病院）

紀野 修一 先生（日本赤十字社北海道ブロック血液センター）

「リスクとされる輸血医療をめざして

－外科、輸血部、血液センターでの経験を踏まえて－

16:00～16:10 【閉会挨拶】

支部長 加藤 栄史（愛知医科大学）

【シンポジウム】 安全で円滑に輸血医療を進めるための教育 ～認定医の立場から

磐田市立総合病院

飛田 規

「輸血療法の実施指針」において輸血責任医師には「副作用などのコンサルテーションに対応できる知識を有するとともに、輸血部門の管理運営を担い、輸血体制を整備する実務上の責任者となること」が求められている。具体的には安全で適正な輸血医療を推進する体制を整備するために、施設全体を動かし、まとめることである。従って、期待される教育とは、実施指針や使用指針の理解促進とそれに沿った運用の確立であり、日常的な手段としては委員会を介した様々な活動が想起される。また、I&Aのような第三者評価を通じた改善活動など、外部に向けた内容も含まれる。安全で円滑に輸血医療を進めるための教育について、実際の活動を紹介したい。

委員会活動として最も身近なものは、院内研修会である。当院では、技師、看護師も交えた三者が講師となって研修会を行い、それぞれの視点から情報提供を行っている。第二は実地研修である。当院では研修医を対象に輸血検査と臨床の場で覚えておいて欲しい基本事項を毎月1名ずつ半日の研修を1対1で実施している。コンサルテーション対応や適正使用のための個別指導もこれに含まれよう。第三は院内監査である。当院では輸血部門を含む全17部署を隔月で1部署ずつ監査し、委員会に報告後にフィードバックしている。監査される側に限らず、監査する側も現状を把握することで、理解と改善を考える教育の場となる。

I&Aのような外部監査も同様で、双方にとって絶好の学習の場となる。最後に、職員の学会発表の指導や院外からの研修受け入れは、指導にあたる職員にとっても貴重な経験となり、日常業務では経験が難しい業務を通じて成長が期待できる。

医師に期待される役割は院内外において多岐にわたる。医療安全と適正使用の視点を軸に、多職種連携のまとめ役としてリーダーシップを発揮し、輸血チーム医療の活性化を推進することが医師に求められる職員教育であると考えている。

【シンポジウム】 安全で円滑に輸血医療を進めるための教育
～認定輸血検査技師の立場より

岡崎市民病院

野口 和希子

2017年に日本輸血・細胞治療学会から「輸血チーム医療に関する指針」が発表され、輸血医療に携わる医師・看護師・臨床検査技師が、その高い専門性を用いて業務を分担し連携・補完し合い、輸血管理及び実施体制を構築するチーム医療が重要であるとしている。また、安全で適正な輸血医療の実践のためには、血液センターとの連携、さらにチーム医療が重要であり、その実現のためには、①各医療スタッフの専門性の向上と役割の拡大 ②各医療スタッフ間の情報の共有を目指す必要があると提言している。

臨床検査技師はデータや検査機器の管理に際する綿密性に長けているが、一方で臨床現場へ関わることに 대해서는非常に消極的な慣習がある。しかしながら、輸血学の知識と経験、専門性を十分に活かした活動を積極的に行うことをおそらく期待されている。

「専門性を活かした活動」を積極的に行うこととしては、患者説明への参入、輸血同意書説明時の補助、各科カンファレンスへの参加、緊急輸血時の現場支援などが挙げられる。また、勉強会・講習会も重要と考えるが、輸血を実施するベッドサイドでの安全性確保には、臨床輸血看護師を中心とした輸血現場における教育・指導が有効であるため、認定輸血検査技師として、臨床輸血看護師とコミュニケーションをとり連携を密にし、協同することが重要と考える。

「輸血チーム医療に関する指針」の中で、専門性をもった4職種構成員からなる「輸血医療チーム」が輸血コンサルテーション、院内巡視、輸血有害事象への対応、院内勉強会にあたることを提言しているが、今回、当院の現状と今後の課題を交えてお話しする。

【シンポジウム】 安全で円滑に輸血医療を進めるための教育
～学会認定・臨床輸血看護師の立場より

安城更生病院

杉浦 利美

【はじめに】

輸血は、血液成分を体内に入れる移植の1つと考えられ、一定のリスクを伴う。この事から輸血療法に対する医療の安全性を確保することは、患者にとって重要な課題である。患者と最終的に関わる看護師は重大な役割を担っている。今回学会認定・臨床輸血看護師として看護教育の現状及び取り組みについて発表する。

【学会認定・看護師としての取り組み】

合同研修や現場でのOJTでは、院内輸血マニュアルに沿って、なぜこの業務、観察、ケアが必要なのかを関連づけながら、マニュアル遵守できるように指導を行ってきた。しかし2021年度輸血リスクレポート結果では、採血関連17件、投与前確認関連11件、製剤投与関連13件、実施入力関連9件と、重大なインシデントに繋がるリスクが起こっているのが現状である。リスクレポートに関しては、輸血療法委員会内で他職種との内容共有及び改善策の検討を行っている。また医師、検査技師と共に、院内ラウンドを1回/年実施している。今年度はICUでの現場監査を行った。現場訪問する事で、照合確認や終了確認時の問題点が明確になった。

検査技師主体に行った看護師対象の血液製剤の受け渡しに関するアンケート結果で、製剤の外観確認を行う目的を知らない割合が11%、スワーリングがあるか確認できていない看護師が70%と高い水準であることが分かった。この事を踏まえ輸血業務マニュアル内に具体的な外観確認方法の追加修正を行い、全看護師への周知を行った。今後I&A受講に向け多職種と連携を図っていきたい。

【今後の課題】

個々現場の現状把握として、定期的な院内ラウンドは、有効な手段である。今後も現場の声に耳を傾け適正な輸血療法が行えるよう支援していく。また継続的に正しい知識の現場教育を行うにあたって、最新な情報を敏感に察知し、I&A受講や愛知県内でも合同輸血療法委員会など学会認定看護師同士のコミュニケーションツールの必要性を強く感じた。

【特別講演】

社会からリスペクトされる輸血医療をめざして
—外科、輸血部、血液センターでの経験を踏まえて—

日本赤十字社北海道ブロック血液センター

紀野 修一

輸血療法は高度に発展した現代医療を支えるために不可欠な手段で、手術、化学療法、移植などの疾患の根本的治療を行う際に、治療を完遂するために必要な血液成分を補う目的で用いられる。治療を受ける患者にとっては、補助療法である輸血に起因する不利益な事象は生じないことが好ましく、われわれ輸血医療に携わるものにとって、血液製剤による患者不利益を最小限にすることが求められる。また、輸血療法に用いられる血液製剤は善意の献血者の血液を原料としているため、献血された血液の公正な取り扱いと透明性の確保も求められる。

社会からリスペクトされる輸血医療を構築するには、血液事業に関わるステークホルダー（献血者、日本赤十字社、医療機関、行政機関、ボランティア、学術団体など）が連携して、上述の課題を達成する必要がある。とくに、日本赤十字社においては血液製剤の安全性向上と安定供給の確保、医療機関においては血液製剤管理体制の整備と適正使用の推進、日本輸血・細胞治療学会においては安全な輸血医療実践のための仕組みづくりや人材育成が重要である。

本講演では、血液製剤を大量に使用していた消化器(肝臓)外科医から、血液製剤を管理し適正使用を推進する立場の輸血部の管理者となり、現在は血液製剤を製造供給する日本赤十字社職員となった自身の経験を踏まえ、社会からリスペクトされる輸血医療のあるべき姿を個人の視点からお話したい。

第80回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会の開催案内
及び一般演題の募集について

1 第80回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会

日 時： 2023年2月25日（土）13時から
開催形式： ハイブリッド開催
例 会 長： 飛田 規（磐田市立総合病院）
一般演題： 特にテーマは定めません
特別講演： 未定

2 一般演題申込み要項

発表演題数： 8～10題程度
発表時間： 口演7～10分、質疑応答3分を予定しております。
（演題数により若干時間が変わります）
抄録作成方法：抄録はWordあるいはMS-DOSテキストファイルで600
字以内にまとめ、E-mailで提出していただきますようお願いいたします。
発表資格：発表者は日本輸血・細胞治療学会会員に限ります。

発表申込期限：2022年12月28日（水）

抄録提出期限：2022年 1月20日（金）

申し込み先：〒489-8555 瀬戸市南山口町539-3
愛知県赤十字血液センター内
日本輸血・細胞治療学会東海支部事務局
Tel(0561)85-4297 Fax(0561)86-0176
E-mail：shibukai@aichi.bc.jrc.or.jp